

子ども・子育て支援新制度参加型勉強会（第2回）
テーマ「親子で行ける場所」

日時 平成27年3月1日（日）13時30分～16時
会場 保育園・教育総合センター 研修室・会議室

- 1 開会、講師紹介
ファシリテーター 東 浩司さん
（NPO法人ファザーリング・ジャパン理事、逗子市市民協働
コーディネーター）
- 2 新制度の概要説明
- 3 意見交換
「理想の姿」を考えるグループワーク
- 4 まとめ
- 5 閉会、アンケート記入

主催 葉山町子ども・子育て会議、共催 葉山町

親子で行ける場所について

1 子ども・子育て支援新制度について

平成 24 年 8 月に「子ども・子育て関連 3 法」が可決・成立し、公布。

この関連 3 法に基づき、幼児期の学校教育・保育や、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進することを目的とした「子ども・子育て支援新制度」(以下「新制度」)が平成 27 年度から本格施行。

市町村は、教育・保育(地域型保育事業)や地域子ども・子育て支援事業(13 本)の今後 5 年間の量の見込みと確保方策を「子ども・子育て支援事業計画」に記載することとされている。

2 親子で行ける場所について

新制度では、子育ての孤立化を防ぎ、不安感・負担感を軽減するために、子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や不安・悩みを相談できる場を提供することが推奨されている。

新制度で該当する事業は、地域子ども・子育て支援事業の 1 つ「地域子育て支援拠点事業」。葉山町での事業名は、「子育て支援センターぽけっと」。

具体的な事業イメージは、別添の国の資料を参照。

3 町の対応案

町の審議会である子ども・子育て会議で、対応案について議論。

別添の会議資料を参照。

未就学児童の保護者向けアンケート調査結果では、「親子で集まる場で利用しているところは？」という問いに対し、子育て支援センターぽけっとの広場が約 34%、児童館・青少年会館の広場が約 37%、広場を利用していないが約 48%となっている。

引続き、子育て支援センターぽけっとと児童館(青少年会館)で広場事業を提供していくが、今後に向けてよりよい体制を検討することも必要。

例えば、広場のようなイベントがあった方がよいが、親子で集まれるだけでもよいのでは...そうした場所がたくさんあってほしい!

4 本日の勉強会の趣旨

まずは親子で集まっている場所の情報を共有しましょう。場所によって雰囲気や集まる人も違います。

夕方も集まるとよいですか?異世代の交流の場になるとよいですか?

今後に向けて、町にとってのヒントをください!

地域子育て支援拠点事業

背景

- ・ 3歳未満児の約7～8割は
家庭で子育て
- ・ 核家族化、地域のつながりの希薄化
- ・ 男性の子育てへの関わりが少ない
- ・ 児童数の減少

課題

- ・ 子育てが孤立化し、
子育ての不安感、負担感
- ・ 子どもの多様な大人・子ども
との関わりの減

地域子育て支援拠点の役割

子育て中の親子が気軽に集い、
相互交流や子育ての不安・悩み
を相談できる場を提供

地域子育て支援拠点

- 公共施設や保育所、児童館等の地域の身近な場所で、
乳幼児のいる子育て中の親子の交流や育児相談、情報提供等を実施
- NPOなど多様な主体の参画による地域の支え合い、
子育て中の当事者による支え合いにより、地域の子育て力を向上

事業内容

- ① 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進
- ② 子育て等に関する相談、援助の実施
- ③ 地域の子育て関連情報の提供
- ④ 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

平成25年度実施か所数
(国庫補助対象分・
少子化室調べ)

6,233か所



地域で子育てを支える

地域子育て支援拠点事業の概要

	一般型	連携型
機能	常設の地域の子育て拠点を設け、地域の子育て支援機能の充実を図る取組を実施	児童福祉施設等多様な子育て支援に関する施設に親子が集う場を設け、子育て支援のための取組を実施
実施主体	市町村(特別区を含む。) (社会福祉法人、NPO法人、民間事業者等への委託等も可)	
基本事業	<ul style="list-style-type: none"> ①子育て親子の交流の場の提供と交流の促進 ③地域の子育て関連情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ②子育て等に関する相談・援助の実施 ④子育て及び子育て支援に関する講習等の実施
実施形態	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>①～④の事業を子育て親子が集い、うち解けた雰囲気の中で語り合い、相互に交流を図る常設の場を設けて実施</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>地域の子育て拠点として地域の子育て支援活動の展開を図るための取組(加算)</u> 一時預かり事業や放課後児童クラブなど多様な子育て支援活動を拠点施設で一体的に実施し、関係機関等とネットワーク化を図り、よりきめ細かな支援を実施する場合に、「地域子育て支援拠点事業」本体事業に対して、別途加算を行う ・<u>出張ひろばの実施(加算)</u> 常設の拠点施設を開設している主体が、週1～2回、1日5時間以上、親子が集う場を常設することが困難な地域に出向き、出張ひろばを開設 ・<u>地域支援の取組の実施(加算)※</u> <ul style="list-style-type: none"> ①地域の多様な世代との連携を継続的に実施する取組 ②地域の団体と協働して伝統文化や習慣・行事を実施し、親子の育ちを継続的に支援する取組 ③地域ボランティアの育成、町内会、子育てサークルとの協働による地域団体の活性化等地域の子育て資源の発掘・育成を継続的に行う取組 ④家庭に対して訪問支援等を行うことで地域とのつながりを継続的に持たせる取組 <p>※利用者支援事業を併せて実施する場合は加算しない。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>①～④の事業を児童福祉施設等で従事する子育て中の当事者や経験者をスタッフに交えて実施</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>地域の子育て力を高める取組の実施(加算)</u> 拠点施設における中・高校生や大学生等ボランティアの日常的な受入・養成の実施
従事者	子育て支援に関して意欲があり、子育てに関する知識・経験を有する者(2名以上)	子育て支援に関して意欲があり、子育てに関する知識・経験を有する者(1名以上)に児童福祉施設等の職員が協力して実施
実施場所	保育所、公共施設空きスペース、商店街空き店舗、民家、マンション・アパートの一室等を活用	児童福祉施設等
開設日数等	週3～4日、週5日、週6～7日/1日5時間以上	週3～4日、週5～7日/1日3時間以上

地域子ども・子育て支援事業 ワークシート (平成 26 年 11 月更新版)

区分	地域子ども・子育て支援事業					
事業名	地域子育て支援拠点事業					
概要	乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う事業					
町での実施有無	有					
町事業名	子育て支援センターぼけっと					
国の参酌標準	利用希望把握調査等により把握した、地域子育て支援拠点事業の希望利用日数等に基づき、居宅より容易に移動することが可能な範囲で利用できるように配慮しながら、計画期間内における適切と考えられる目標事業量を設定すること。					
実績 (24 年度) (人回)	のべ 15,221 人 (ぼけっとのみ) 1 月あたりのべ 1,000 人 ~ 1,400 人					
見込み量 (人回)	区分	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
	年	21,396	20,436	19,500	18,540	18,540
	月	1,783	1,703	1,625	1,545	1,545
ニーズ調査結果	<p>利用状況は、子育て支援センターぼけっとの広場事業が約 34%、児童館・青少年会館の広場が約 37%、広場を利用していないが約 48%となっている。</p> <p>自由意見でぼけっとの広場事業の時間を元に戻してほしいとの意見あり。</p>					
町子ども・子育て会議での意見	<p>ぼけっとの広場事業の時間を元に戻すべき。</p> <p>長柄にもぼけっとのような拠点が必要。</p> <p>様々なイベントを提供し、人員も確保すべき。</p> <p>人がつながるためには、拠点となる場の提供が重要なポイントとなる。</p> <p>各機関の利用率を上げようとするのであれば、利用時間を広げるなどの工夫は必要。</p>					
方向性	<p>月でわりかえすと、1 月あたりのべ 1,500 ~ 1,800 人の来館者がいる見込み。</p> <p>ぼけっとの広場事業の時間について検討。</p> <p>児童館・青少年会館の広場の利用者が多いこともふまえ、子育て支援の拠点の役割をどのように考えるか検討が必要。</p>					

対応案	<p>ぼけっとと児童館（青少年会館）でひろば事業を提供していく。</p> <p>平成 27 年度から検討を行い、実施内容をより充実していく。</p>				
確保方策 (か所数)	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
	8	8	8	8	8

2月15日子ども・子育て支援新制度勉強会 意見まとめ

前回話し合った内容（一部）

子育て中のお母さんがランチをとる場所がある。お母さんたちが話している間、スタッフ3人がお子さんたちをみている。

- ・ 一色 engawa 毎週月曜 10時～15時30分
- ・ ワンコインランチ（沖縄風弁当）やケーキあり
- ・ ヨガなどのワークショップあり
- ・ 近隣の駐車場を500円で利用できる
- ・ 予約は不要
- ・ 詳細はすくすくパラダイスのホームページから

子育ての情報を知るには、お母さんたちが編集した子育て冊子『TSUNAGU～つなぐ～』がある。

年齢制限なくみんなが集まれる場所として、児童館がある。子どもは0歳～18歳まで対象で、未就学のお子さんは保護者同伴で利用できる。

上山口児童館は公園付きで駐車場もある。理想はカフェがあるとよい。児童館は飲食禁止で、食べられるスペースがあるのは上山口児童館だけ。

葉桜児童館は車をとめる場所がない。

元町児童館も車をとめる場所がないが、近くのユニオンにとめて利用しているお母さんもいる。

民生委員は児童館に顔を出すようにしている。節分の時期は豆まきの鬼役になる。民生委員が様子を見ている中で、町への相談につながることもある。

地域の中で声をかけることが少なくなっている。子育て支援センターにつながっている人はよいが、どこにもつながっていない人はどうしたらよいか。民生委員がちょっとしたことを受け止められたらよいと思う。

葉山にはもともと素材がそろっていて、ハコ（施設）もそこそこある。既存のハコ（施設）を利用して何かを始めることはできないか。例えば雨の日に行ける場所があるとよい。

児童館は日曜日開いていない。平日や土日に関係なく行ける場所があるとよい。

小学校を持ち回りで開放することはできないか。

子ども会は加入率に差がある。親の都合でやめる子もいる。子ども会が消滅したところと内容の濃いところがある。子ども会対抗などをすると、普段より熱くなって盛り上がる。

葉山はイベントが元気だと思う。都内から来る人もいる。

子ども会が町内会と一緒に活動することもある。

転入してきたが、青少年会館に近いところに住んでいて、あまり不自由なく子育てできた。すべての児童館に車で行けるわけではない。遠いと気合を入れて行かないといけないのでつらい。

どこにもつながっていない人たちが苦しんでいる。

子育ての環境はここ20年くらい変わっていない。使いづらいという声はなくなっていない。

子育ては誰も経験する全人類のキーワード。本来子育てをきっかけにみんなつながれるのではないか。アメーバのようにすき間に入りこんでいけたらよい。

今日、未就学のお子さんの保護者が来ていないのはどうしてか。必要な人に必要な情報が伝わっていない。

一番必要な人に情報が届いていないのは、支援全般に関わるテーマ。例えば子育てパパの講座をしても、本当に必要なお父さんは来ない。

当事者を巻き込む手法や発信するタイミング、きっかけづくりが大事。仲間づくりの中でキーマンをみつけていく作業が必要になる。期待を持ちつつ地道に探していくしかない。

20年前、自分たちで育児グループをつくるのが推奨されていた時期があった。以前に比べると子育てグループも増えている。

親御さんをつないであげられるのも保育園の役割。保育士さんからの発信もお願いしたい。

お父さんも子育てに参加してほしい。おやじの会などお父さんのコミュニティもある。巻き込んで出番をつくってあげることが大事。

CSP講座は受けてみてよかったが、実際に困っている親には敷居が高いと思う。

ペアレントトレーニングは、子育てのハウツーを繰り返しゃることが力になる。

新しい仕組みができて親のニーズに応え切れていない状況は昔と変わらない。

児童館で自分たちで活動してきたグループの縁が今でも続いている。葉山は使い方によっては、子育ての恵まれた環境があると思う。

子育て環境は変わっているが、情報が届いていないという困り感は変わっていない。そうした意味で子育て中のお母さんの悩みは変わらない。

「子ども・子育て支援新制度」参加型勉強会（2月15日）アンケート結果

アンケート回答者 8名

1 勉強会の満足度 平均満足度 4.4

（満足度の指標）

満足度が低い

普通

満足度が高い

2 勉強会をどこで知ったか（複数選択可）

広報はやま2月号 5名

町のホームページ 0名

町内会の回覧 2名

チラシ 4名

ア．幼稚園・保育所 (3名)

イ．町役場 (1名)

ウ．児童館 (1名)

エ．ぽけっと (0名)

その他 3名

3 自由意見（勉強会を通じて、今後どうなったらよいと思ったか）

- ・ 必要とする人にどうしたら情報やサポートを届けられるのか。
- ・ いろいろな考え、知らなかったこと、とても新鮮に思い、楽しい時間でした。みんながもっと参加できる参加する会に発展していけばいいと思います。
- ・ 今ある情報のパイプの必要性を感じました。広報や回覧にアンテナをはるように意識していますが、まだまだこぼしてしまうこともあり...気軽に立ち寄れるコミュニティスペース、行くと何か発見できる場所があるといいですね。
- ・ 情報が入りやすい環境がつくられるといいと思いました。経験上、子育て時代の友人は長くいいお付き合いができます。ぜひ、いろいろな方々がつながれるようになるいいと思います。せっかく小さな町なので、本当の子育て世代の方々に参加していただくといいと思いました。
- ・ 勉強会を続けることが大切かと思いました。また、そのメンバーの中から1人2人発信できる起爆剤になる人をつくることも大事だと思います。ありがとうございました。
- ・ 人数的には少なかったかもしれませんが、話は充実していたかと思います。ただ、子育て当事者の方の参加が増えて、当事者の気持ちが議論されるとよいなと思いました。
- ・ お互い様というように気軽に助け合える町になったらいいなと思いました。
- ・ このような機会をいただき、ありがとうございました。少しでも多くの親が参加して地域を巻き込んでより子育てしやすい町になればと思います。パパ友募集中です。